

天声人語

ひつこんでろ。そんな罵声を浴びながらも、自分の仕事を成し遂げようとする。それが漫画『監査役 野崎修平』の主人公である。銀行の小さな支店の長から監査役に転じた野崎は、お題を自ら探し、調べていく▼いかがわしい取引先に乗り込むと、「ワシはおたくの銀行の歴代の頭取と懇意の仲や」とすごまれる。野崎はひるまない。「トツブが絡んでいようがいまいが、私は監査役としての自分の任務を全うするだけです」▼熱血漫画を思い出したのは、会計検査院の仕事に接したからだ。税金がむだになつていなかを調べる検査院は、企業でいえば監査役にあたる。森友学園への国有地売却で、値引きをした根拠が不十分だったと指摘した▼ごみが地中にあるのを理由に9億円台の土地を1億円台まで下げたのは、やはり大甘だった。そんな見方が検査院の報告で裏付けられた。ただ、優遇した理由は何だったか、首相夫人の威光が働いたかどうかは分からなかつた。もういいかげん、納得できる調査を政府全体でしてほしい▼民主國家を支えるのは選挙だけではない。裁判所や公正取引委員会、そして会計検査院など独立性の高い機関がチェック役を担つてゐる。もしも嫌な指摘に耳をふさぐなら、法と制度はないがしろになる▼監査役がお飾りになりがちなように、会計検査院も霞が関のなかでの立場は決して強くはない。そんな存在にしておきたい政治家や役人がいるからだろう。

2017・11・24